

夢を見据えて

名古屋市立北一社小学校 六年 三宅 瑞希

私は将来、官僚として日本の借金の返済を迅速に進めたい。それは、五年生のときに、六年生の予習で日本は借金大国であることを知ったからだ。日本は少子高齢化などの影響で年々必要な予算が増えている。それに伴い公債金、つまり借金も増えているのだ。しかも、これまでの借金の利子はどんどんふくれあがってゆく。このままでは日本の未来は危ういと考え、日本の政策を練る官僚の道を目指すことにした。

そこで、官僚を目指すライフプランに必要な四本の柱を考え出した。

一本目の柱は、豊かな知識である。これは、小学校から高等学校までの社会科である程度は積むことができる。そしてそれらをより濃いものとし、開花させるために大学に行きたい。大学では、豊富な知識を得られると同時に、様々な人と関わることでビジネスに不可欠なコミュ

ニケーション能力をも高めることができる。現時点では都内の媒私立大学に通い、政治現象についてくわしく追究することを夢見ている。

二本目の柱は、多様な経験である。私は今まで、政治に関する仕事を直接見たことがない。しかし、一度でもそのようなものを見ておくと、きっと今後の参考になると思うのだ。そのため、高校受験勉強の無い中学校一、二年生のうちに見聞を深めておきたい。

三本目の柱は、資金である。私は東京の私立大学に通いたいため、多くの学費や下宿代、生活費が必要となってくる。

さらに、これに受からなければ官僚になることができない。「国家公務員採用試験」は非常に難しい。私には、少なくとも一年程勉強する時間が必要だ。そうやってくると、追加の生活費や新たなテキスト代などがかかる。大学の学費から合計

してみると、数百万円のお金が必要となる。そこで、自分のお金の使い方をふり返ってみた。私は今まで、もらったお小遣いなどを少しづつ大切に使ってきた。しかし、これから自分の思う道を歩む上で、時には思い切ってお金を使うことも必要なのかもしれない。

官僚という職業は大変だそうだが、膨大な量の仕事があるらしい。それでも私の官僚になって日本の未来を明るくするという願望は折れない。一度、日本の未来が暗いなら外国に住みたいな、と思ったことだってある。でも、日本は、私を育ててくれた国だから。私のためにも、日本の借金が少しずつ増えているのだから。

そう思うと、日本を放っておけなかった。もし、仕事に嫌気がさしたら、自分が官僚になりたかった理由を思い返してみればいい。私は日本の未来を明るくしたかったのだ、と。四本目の最も重要な柱は、情熱だ。私は情熱の火を絶やすことの無いよう、勇気をもって夢への階段を上りたい。

高校受験のないうちに、市議会を傍聴するなど経験を積む

三宅 瑞希 のライフプラン

将来なにになりたいか? 官僚

その理由: これ以上利子がふくれあがらないで日本の借金を返済し、日本の未来を明るくしたいから。

夢をかなえるまでのスケジュール

西暦(年)	年齢(学年)	夢をかなえるために努力すること	努力するために、なににお金がかかりそうか
2022年	11(小6)	社会のテストで常に100点をマークする	
2023年	12(中1)	公民で政治の仕組みを学ぶ	
2024年	13(中2)		
2025年	14(中3)	旭丘高校(進学率高)へ行くため勉強する	
2026年	15(高1)	旭丘高校へ行って勉強する	
2027年	16(高2)		
2028年	17(高3)		予備校代
2029年	18(大1)	早稲田大学の政経学部へ入り	入学金・学費
2030年	19(大2)	政治現象をくわしく追究する	下宿代
2031年	20(大3)		
2032年	21(大4)	大学卒業	
2033年	22	国家公務員採用試験のため勉強するアルバイトをする	1年分生活費・テキスト代
2034年	23	合格する	(さらに追加分の生活費)
2035年	24	官僚の職につく	家賃
2036年	25		
2037年	26	職場になじむ	
2037年	46	日本の歳出の多さをより国債費にあてられるような政策を考え出す	

※最後の行は、荷職の時にどうなっていたいか、自分で好きな年を入れてみましょう!